

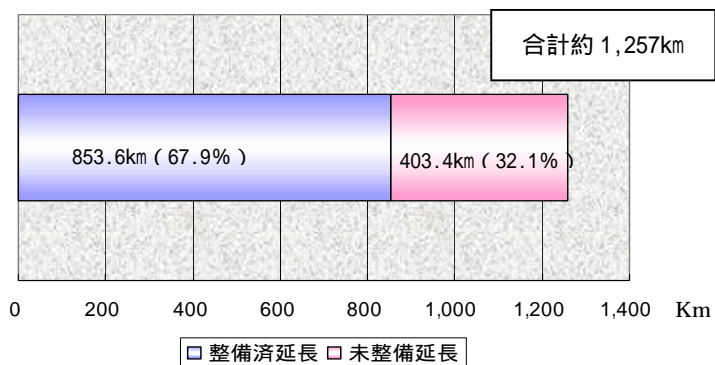
指標 6

地域内連絡道路安心すれ違い率

現状と課題

整備が遅れている狭隘な地域間連絡道路

日常生活に密着した地域内連絡道路では、整備済区間は 68%に留まり、十分な幅員が確保されておらず、安心してすれ違いのできない区間が多く存在する。



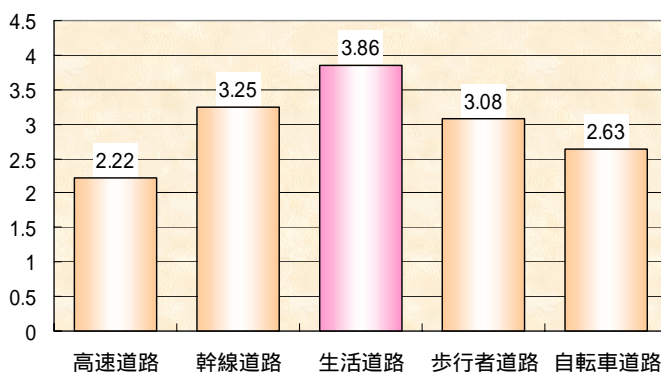
(主)輪島富来線 輪島市空熊地内



(一)布橋出合線 小松市光谷地内

生活に身近な道路の整備を求めるニーズ

いしかわのみちづくり1万人アンケートでは、生活に身近な道路の整備を求めるニーズが高い。

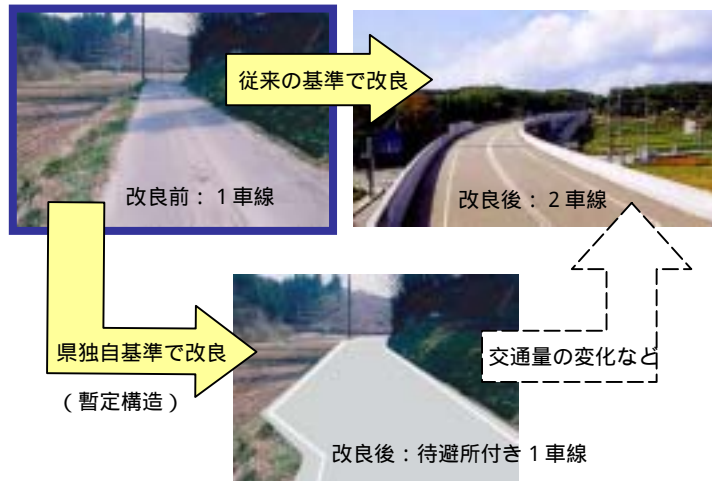


回答者には、高速道路、幹線道路、生活道路、歩行者道路、自転車道路の5種類の道路について、整備の優先順位をつけていただいた。第1位とつけた道路には5ポイント、第2位とつけた道路には4ポイント、第3位とつけた道路には3ポイント、第4位とつけた道路には2ポイント、第5位とつけた道路には1ポイントをそれぞれ加算し、平均値をとったところ、左のグラフのような結果となった。

取組みの方向性

生活に密着した地域内連絡道路の安全性の水準を上げるため、拡幅整備やローカルルールによる1.5車線の道路整備などにより、自動車が安心してすれ違うことのできる道路の確保を目指します。

ローカルルールの導入：例えば、交通量の少ない地方部の道路なら…



ローカルルールによる1.5車線の整備；待避所の設置やカーブ部分の見通しの改善等、緊急性を有する部分の解消による底上げ（ボトムアップ）を図るとともに、交通量の変化などにもなう段階的水準の切り上げ（ステップアップ）を図る整備

取組みの成果指標

地域内連絡道路安心すれ違い率を示す指標として、地域内連絡道路の整備済み延長の割合を採用しました。

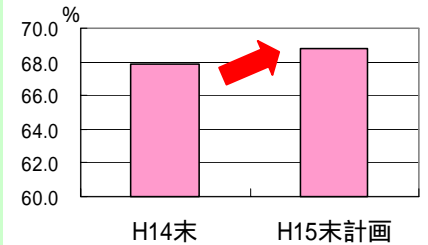
$$\text{地域内連絡道路安心すれ違い率} = \frac{\text{安心すれ違い確保の整備が行われた延長}}{\text{地域内連絡道路の総延長}}$$

- * 対象路線：地域内連絡の役割を担う道路（県道）約1257km。ダブルラダー路線や地域連携道路、観光周遊道路は、既に成果指標の評価対象としているため、対象道路から除きます。
- * 整備が行われた道路とは、幅員が5.0m以上確保（1.5車線の整備も加味する）されている道路の延長

地域内連絡道路安心すれ違い率の向上に向けた平成 15 年度の成果目標

地域内連絡道路の安心すれ違い率を H14 末 67.9% から、H15 年末には 68.8% へ、約 1% 増加させることを目指します。

項目	H14 末	H15 末計画	増
安心すれ違い率 (整備延長)	67.9% (853.6km)	68.8% (865.5km)	0.9% (11.9km)



H 1 5 年度に供用を予定している主な箇所

路線名	箇所名	延長	整備内容
(主)珠洲里線	輪島市鈴屋～珠洲市若山町上山	2.9km	1.5 車線の整備
(一)滝又三井線	輪島市空熊	0.2km	拡幅整備
(一)熊坂今出線	加賀市熊坂～大聖寺錦	0.3km	拡幅整備
(一)志賀鹿西線	鹿西町下後山～徳丸	1.5km	バイパス
(一)芝原石引町線	金沢田上町	0.5km	拡幅整備
(一)津波倉寺井線	小松市三谷	0.4km	拡幅整備
(一)池田江崎線	門前町中田	1.0km	拡幅整備

平成 20 年代中頃までに、地域内連絡道路安心すれ違い確保率約 80% を目指しています。



整備前



整備後

(主)珠洲里線 珠洲市上下山町地内

